

平成 22 年度第 1 回 日本小動物外科専門医協会 理事会 議事録

開催日時：平成 22 年 5 月 14 日(金)午後 6 時から 9 時

開催場所：東京都渋谷区宇田川町 33-6 T's 渋谷フラッグ 7 階 7E 室

出席者：大橋文人、佐々木伸雄、藤永 徹、丸尾幸嗣、泉澤康晴、小林孝之、金本 勇、
大石明広、宮原和郎、小川博之、若尾義人。

欠席者：諸角元二、廉澤 剛。

議 事

報告事項

1. 平成 21 年度資格審査委員会ならびに平成 22 年度資格審査結果の報告

資格審査委員会丸尾幸嗣委員長より、資料に基づいて 3 月 25 日(木)東京大学で行われた資格審査委員会について次のように報告された。

1) 第 2 回研修施設、研修プログラム申請

本年度、新たに基幹研修施設として 2 施設、関連研修施設として 4 施設の申請があり、審査の結果いずれも承認された。現在、基幹施設 13 施設、関連施設 11 施設が認定されている。

2) 第 2 回研修参加申請および研修免除受験申請資格申請

それぞれ、7 名および 1 名の申請があり、いずれも承認された。

3) 第 1 回専門医試験に対する研修免除受験資格および別枠受験資格申請

それぞれ、1 名および 2 名の申請があり、いずれも承認され、3 名が 5 月 13 日からの第 1 回専門医試験を受験した。

4) 第 1 回研修実績報告書

- ・平成 21 年度に開始したレジデント 12 名のうち、3 名が研修中止を申請し、1 名から所属先変更による研修施設および指導専門医等変更の申請があり、いずれも承認された。
- ・ A 研修施設からの第 1 回研修実績報告書に、日本の獣医師免許を有しないと思われる外国人が執刀医として記載されており、これは獣医師法違反になるため、適切な対応をとるよう指導医に指示することとなった。なお、外国人の執刀した症例については、手術経験数から除外することにした。
- ・ A 研修施設からの研修実績報告書は、他施設からの報告書に比べてあまりにも簡便すぎ、内容の詳細が点検できないため、報告書の記載法について改善を求めることとなった。

5) 以上の各種申請において、書類記載上に不備が認められるものがあり、それらについては再提出後に審査の上、いずれもさかのぼって承認することとなった。

特に改善すべき点として、手術内容の吟味、関連施設での研修指導体制の明確化、直接監督者申請の徹底、手術記録の見本作成などがあげられた。

6) 一部申請期限および審査回答期限が守られていない場合があるので、厳守すること、また研修参加申請や研修施設認定については、申請期間を早くして、3月末までには認定通知できるようにできないかとの意見があった。

7) 7月30日(金)午後開催の第1回レジデントプログラムについて、5月15日締め切りではあるが、14日時点で7名の申し込みがあった。

- ・資格審査委員会で行う本プログラムの発表会の運営に当たっては、参加人員を勘案して発表開始時間や発表時間を検討して企画するよう要望された。

なお、レジデントプログラムについて、次のような意見が出された。

- ・学会前日の発表会では、学会の期間が実質3日間となり、指導医にとっても参加が大変厳しくなるので、2日間の学会期間中にプログラムを組むようにとの強い要望があった。

- ・本プログラムの位置付けがなされないまま、「成果発表会」として「可能な限り必須」というような曖昧な表現で開催案内が出され、一部のレジデントと指導医の間で混乱が生じた。

- ・本プログラムが、学会としてのOriginalな発表の場であるのか、単なる症例報告であるのか、あるいは当初希望が出されていた、いわゆる教育講演や招待講演とするのか、位置付けを明確にする必要がある。

- ・次年度以降のレジデントプログラムの実施に関して検討する必要がある。

2. 平成21年度試験委員会の活動ならびに第1回専門医試験の報告

試験委員会泉澤康晴委員長より、資料に基づいてこれまでの試験委員会の活動と第1回専門医試験について次のように報告された。

1) 試験問題作成および選定の経緯

- ・昨年春から試験問題作成の依頼を開始したが、なかなか問題が集まらず2回の依頼でやっと体裁が整ったのが実態であった。また、症例問題については適切な問題があつまらず、委員会から個別に問題作成を依頼した。

- ・試験問題作成に関して、退職などによる7名の辞退者をのぞいて、10名の専門医から協力が得られなかった。

- ・提出された問題数が少なかつたことから、試験問題選抜委員会の行程をスキップし、試験問題選定委員会による専門医認定試験問題作成工程に移行し、4月末に試験問題の確定に至った。

2) 試験実施の概要

- ・第1回専門医試験は、東京渋谷のT's渋谷フラッグで5月12日午後の説明会、13日および14日の試験と滞りなく実施された。試験実施に当たって、泉澤康晴・宮原和郎・大石明広の三理事が3日とも全面的に対応し、佐々木伸雄・藤永徹

理事が問題内容確認のためそれぞれ1日対応した。

3) 試験問題の講評と公表、

- ・試験問題は、おおむね良問と判断され、難易度についても後に説明がある受験者とその成績から、適切ではないかと判断された。
- ・厳密な講評(確認)には数名の人員が必要であり、今後の課題となった。
- ・試験問題は、現時点では公表しないこととなった。ただし、問題作成や受験者の心構えのために一部問題の例示はすることになった。
- ・なお、出題された試験問題の出題分野や細目一覧は後日公表される。

4) 試験結果

- ・試験実施・採点後の結果について受験者の氏名が伏せられてその概要が報告され、理事会に合否判定が提案されることとなった。

5) その他

- ・試験委員会からの問題の作成依頼に対する反応が全般に低く、問題数が集まらず、試験問題の選定・作成に苦慮した。試験問題作成に対して本協会員に対する協力依頼が強く訴えられた。
- ・近々検討が開始される専門医のポイントによる任期制に関連して、提出された問題が、専門医試験に採用された場合には、協会に対する貢献度から勘案して高いポイントが考慮されるよう、要望があった。
- ・せっかく提出された試験問題において、不備のため“アイデア“としてしか利用できなかった問題が多数あった。次回の依頼時には、問題作成に当たっては、例示問題を十分に参考にして作成するようお願いする。
- ・今回の受験者に対して、後日メールで第1回専門医試験に関するヒアリングを行う。
- ・今回の試験では、試験の前夜に説明会がもたれたが、試験当日の朝に説明を行い、試験日程を極力短縮し2日間で試験日程が終了するよう要望があった。

3. その他

- ・佐々木伸雄理事より、昨年末の台北での学会時の合意に基づき、Asian Society of Veterinary Surgery(仮称)の組織作りが進められている旨報告された。

協議事項

1. 第1回小動物外科専門医試験の合否判定

- 1) 試験委員会泉澤康晴委員長より、第1回専門試験の合否判定方法について、資料に基づいて説明があり、続いて症例筆記試験、実施筆記試験、および学術筆記試験のそれぞれについて判定基準案が提案された。審議の結果、合否判定基準が委員長提案通り認められた。
- 2) 氏名が伏せられた受験者の試験結果が示され、受験者の試験分野ごとに、先に決

定した基準に基づいて厳格に判定された。

3) その結果、合格者はおらず、部分合格者は 2 名であった。部分合格者については、平成 22 年度に不合格分野の再受験が許可される。

4) 合格発表は、会長名で受験者に通知される

2. 平成 23 年度各種認定基準・報告書様式等の見直し

1) 平成 23 年度版専門医制度冊子は、6 月末をめどに修正を終えて学会ホームページに掲載を予定しているが、修正が必要な場合には藤永理事へ連絡することとなった。

2) 研修プログラムのうち、外科以外の分野における研修内容の基準が示されていないため、認定委員会の下で各専門分野の協力をえて具体化を諮ることとなった。

3. 平成 21 年度事業報告・決算

・ 諸角元二財務担当理事より平成 21 年度予算・決算書の提出があり、審議の結果、原案通り了承された。

4. 平成 22 年度事業計画・予算

・ 諸角財務担当理事より平成 22 年度予算案の提出があり、審議の結果、本年度はすでに試験が実施されるなど、必要経費の詳細な積算がおおむね可能と思われることから、より具体的な予算案を作成することとなった。

文責：藤永